



学校だより

令和5年1月31日
横浜市立上白根小学校
【2月号】



<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamishirane/>



一人ひとりの伸び

副校長 内 和俊

暦の上では、もうすぐ立春を迎えますが、ここ数週間は真冬の気温で冷え込むことが多かったように思います。南国、鹿児島生まれの私としては、1月はこんなに寒い月だったかなと思ったほどです。そんな中ですが、子どもたちは白い息を吐きながら、元気に登校しています。子どもたちの元気で私たちも力が出ます。

さて、少し前になりますが、年末年始は多くのスポーツの大会がありました。サッカーにラグビー、バレーやバスケット、駅伝など、皆さんの中にも現地に行かれた方、またはテレビで応援された方も多かったのではないのでしょうか？日本では、夏の甲子園然り、トーナメント方式の学生の大会が多く開催されています。みんなが優勝を目指し、切磋琢磨し、一度負ければ終わりの試合に臨む姿。ひたむきな努力や友情、熱いドラマなど、見る人たちも感情移入せずにはいられなくなります。私自身、学生のときを思えばスポーツとは違いますが、吹奏楽で全国を目指した記憶がよみがえります。そこで得た仲間や経験は、今に確実に生きていくといえます。そんな学生スポーツの世界では、時に結果が重要視されることがあります。確かに相手に勝ったり、優勝したりと自分たちが頑張った成果が出るにこしたことはありません。でも、大事なのはそこに至る過程だと思います。目標に向かって計画を立て、どんな練習をして、どれだけ協力できたか、そして絶えず振り返りながら、自分たちがどれだけ伸びたか、そこに大きな価値があると思います。

これは学習にも言えることです。学習もついつい結果に目がいきやすいところがあります。例えば、漢字テストで80点が目標点数だったとしましょう。Aさんは70点で、Bさんは80点でした。結果だけを見れば、Aさんは目標に達しておらず、Bさんは目標に達しているということになります。そして、Aさんはもしかすると80点をとれるようにもっと練習しようとして声をかけられるかもしれません。しかし、ここに前回のテストの結果があるとどうでしょうか。Aさんは前回20点だったとすると50点伸びたことになる。また、Bさんは前回90点だったとすると今回は10点下がったことになる。この場合、皆さんはどう声を掛けますか？Aさんは今回学習の進め方を工夫して、自分に合った方法を考え実践していたのかもしれない。逆にBさんの方が勉強の進め方に悩みを抱えているかもしれない。結果だけではなく、その過程を見てどう伸びたか、なぜ伸びたかを考えることが、子どもたち一人ひとりを伸ばすことにつながるのではないのでしょうか？これから学年末を迎え、テストなども返却されると思います。結果だけでなく、それまでどう取り組んだか、どう伸びたかなどご家庭でも話題にさせていただけたらと思います。